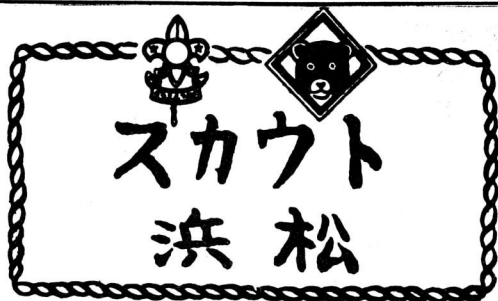


ち か い

- 一、神(仏)と口とに誠を尽し
“おきて”を守ります
- 一、いつも、他の人々を援け
ます
- 一、体を強くし、心をすこや
かに、徳を養います



お き て

1. スカウトは誠実である
2. スカウトは忠節をつくす
3. スカウトは人の力になる
4. スカウトは友誼に厚い
5. スカウトは礼儀正しい
6. スカウトは親切である
7. スカウトは従順である
8. スカウトは快活である
9. スカウトは質素である
10. スカウトは勇敢である
11. スカウトは純潔である
12. スカウトはつゝしみ深い



西部ブロックB-P祭会場

B-P祭にあたって

県コミッショナー 内田 嘉一

- 我等の、世界の、チーフスカウト。一ボーイスカウトの創始者、ロード・ベーデン・パウエルは1857年2月22日、霧の深いロンドンで生れた。この日を世界中のボーイスカウト関係者は、B-P祭と呼んで毎年記念の式を行っている。普通は団、隊、班で計画を樹てて、自発的な行事としている。
- B-Pは明治45年4月16日、突如として日本にやって来た。ときに彼は55才であった。日本に来た動機については、著書ローパリング・トゥ・サクセスのP21に「セント・ピーター上人の、夢のお告げに依る」と書いてある。米国から、西印度諸島を廻って、パナマから日本に渡って来たらしい。
- その前年(1911年)B-Pはロンドンで乃木希典大将と会っている。英国の国王の戴冠式に、天皇の御名代として渡英せられた東伏見宮の随行員として渡英されたのである。その時B-Pは、日本の武士道について、乃木さんからいろいろと教わった

ので、B-Pは日本訪問の魅力を、武士道を通じての日本を見ることにあったのであろうと思われる。

- B-Pは1913年、即ち日本訪問の翌年、この時の旅行記を『海外のボーイスカウト達』の名称で出版している。この本の中に「JAPAN」という章が第4章として出ている。この章の書き出しは、
夕方、船は横浜に着いた。夕映えに富士山が見える。灰色の日本の軍艦も居る。これは、美と力との日本を強く印象づけた。
突如、小船に乗ったスカウトの一群が英国旗をかかげて出迎えに来た。その大部分は英国人である。
〔注・これは横浜在住のグリフィン氏の隊であらう〕

○尚その章には、矛術について12行、舟の櫓について14行、家について31行、寺院について30行、武士道について21行、乃木大将について28行、旅順攻圍戦について62行、赤穂義士については実に192行等で出来ている。

B-Pのスカウト的視野から見た日本観、を綴ったもので、B-P独特の見方、鋭い観察眼力がうかがわれる。

- B-Pが日本を去ったのは多分、桜の花の散った頃と思われる。それは、その中に美しい桜の満開を見た。という文章があるからである。この年の8月、明治天皇が崩御せられ9月13日の御大葬の際、その「ひつぎ」が宮城を出る事を知らせる甲砲の音と共に、B-Pの親友であった乃木希典とその妻・静子夫人とが殉死されたのである。従って、その本には乃木大将のくんだり乃木さんを偲ぶ痛惜の情が深くうかがわれるのである。

○この本の全文を通じてB-Pは「神と国と天皇とに誠を尽して」いる日本の国を世界に紹介しているのだという感じを強く感じた。

「DUTY」の為には、切腹をして自己を棄てるといった、日本人の使命感DUTY感を至るところに書いている。ハッキリそのものは未開人のやることであって、批判に苦しむことであるが、「DUTY」に対する日本人のセンスとモラルは非常に尊いものであるとしている。これは、サムライのセンスとモラル、即ち武士道によるものである。とハッキリ断定しているのである。但し婦人に対する礼節については、西洋の騎士道の方が優れている……と述べている。

- この本が発行されてから60年以上もたった現在の日本に目を移して見ると、日本の変わり方、日本人の変わり方はどうであろうか。この本は日露戦争直後の、日本の姿を描写しているのである。B-Pは日本の真価を、日露戦争の中から掘り出しているのである。

○古いものは、何でも彼でも一切、紙屑のように捨ててしまっ、かえり見ない現代の日本の青少年に改めて、古い歴史の上に立って、新しい日本を創って行きたいものである。

温故知新

参考・この本の訳したものの抜粋が「B-Pの日本見聞録」として日本連盟発行のスカウティング誌に昭和49年11月号から連載されている。

B - P 祭によせて

浜松地区委員長

内田 時 世

1857年2月22日私達BSの総長ロバート・ステフエンソン、スミス・ベーデン・パウエルが誕生した。B・Pが1941年1月8日85才にて死去するまでの偉大なる行績は今日も尚生きている事は衆知の事実である。「スカウティングフォボーイズ」を此の機会に再読することもBS運動に関心を持っている私達にとって必要なことと思う。

私は、私なりにB・Pの偉大さを再認識して次の点を強調したい。

1. 1908年としては革命的な少年の天賦の本性に対する理解が人格教育の新しい方法として結果づけたこと。即。

(イ)少年を信頼し、少年に責任を与えることを強調した。

(ロ)少年に行為の基準を示した「ちかい」と「おきて」

(ハ)少年に活動の本性を提供した野営と開拓作業。

(ニ)少年にパトロール制度を採用した。

2. B・Pがスカウト運動を始めた頃は、彼自身50才を過ぎていたこと。

B・Pのスカウト運動のねらいは、少年達が自分が自分を教育していくことになり、利己を奉仕に置替えることを願っていることである。私達はB・P祭を各地で挙行するにあたり、今一度此の運動の原点に帰えって考える必要がある。

ブロックの皆さんへ

浜松地区コミッショナー

三輪悦爾

B - P 祭おめでとう

1857年2月22日は、どうゆう日でしょうか、おわかりになりますか？。今からちょうど「118年前」のきのうボーイスカウトの父ベーデン・パウエルがロンドンのハイパークと云う大きな公園の北側で生れた日ですね。日本の年代にして安政4年、孝明天皇の御代です。さて、皆さんB - Pが日本を訪問したのをご存知ですか。それは今から63年前、大正2年の4月2日から約1週間つぶさに国内を歴訪されました。B - Pが日本を観察された一部のコピーの中から照会しましょう。

巨木の中を散歩する山麓に寺院あり、写生をする。できるだけ多くの写生をした。歩を移し、目を転ずごとに美を発見する。朝食後、東照宮を見る。神社の参詣人続き投ずる金、大なり。と。日光は810年頃上人により開山され風神をまつる。東照宮は將軍をまつる。また、皇居前を通る。平野地は「たんぼ」あり。木造家屋に障子の部屋。汽車狭し、肥大の日本人豚の如し。日本人は極めて美的なり。下駄の音

は音楽的なり。又、日本人はボーイスカウトに理解あり。

日本人の性格につき興味ある話を聞く。彼らは勇敢であるが、武士道精神を必要とする。礼儀は正しいが、一欲が深すぎる。そして自らを他の人の目で見べきである一と。

皆さん、今日一日を楽しく、愉快に、元気一パイ張切ってください。

B - P の言葉

浜松地区副委員長

宮 沢 広 士

3月6日早朝マール学園出火の際はいろいろとお見舞をいただき有難く厚く感謝申し上げます。割合い早期に発見致しましたので、大事にならずに屋根裏の電気の配線からの出火で、天井裏が全面的に焼けただけでくい止めることが出来ました。これも皆様の心からなる御援助のお力とひとえに感謝申し上げます。発見してからは、丸で狂った様に母と妻と3人で必死に水をかけましたが、及ばず消防のお力をお願い致しました。全く少しばかりの力では無力に等しい事を思い知らされました。

自分の力で築いて来た自分の施設・財産が一秒毎に焼けてだれていくのをぼう然と見ていなければならなかった数分間の気持は、何とも言えませんでした。ただ、くやしい。情ない。いらだちと何処にもぶつけることの出来ないいかりと……。只、男泣きに泣きたい心境でした。直ちに団の皆さんがかけつけて来て下さいました。‘先生ー、‘先生ー、と口口に言って元気づけて下さった時、私は心の中で泣いて感激しました。普段はそれ程の感情は湧いて来ないものです。でも、この様な災難を背負った時、逆境に落ちた時、人の情有難さがわかるものです。カブのお母さん方も、はせつけて下さいました。ずぶぬれになったピアノやエレクトーン数十台の水をふきとり、手ばやに処理して下さいました多くの方々、消然とした私の心にどんなにか大きな原動力を与えて下さった事か。私と女房とは、もし一人も、誰も来てくれなかったらどんなに淋しい事かとおつく語り合いました。

他人の為に力を尽せとB - Pも言われた通り、普段の生活が大切だと心からかみしめてB - Pの言葉を思い、深く頭の下る思いがしました。私はスカウティングの有難さ尊さをこんなに程痛く感じた事はありません。一生涯の教訓として一途に精進致したく思っております。

故大橋俊蔵氏に『かっこう章』

元浜松第7団団委員長、元地区指導者養成委員長故大橋俊蔵氏の生前のスカウト活動と奉仕に対し、この度ボーイスカウト日本連盟有功章「かっこう章」が贈られた。氏の功績を心からたゝえ、いつまでも伝えるとともに心からご冥福をお祈りします。

2月23日(日) B-P祭が各ブロック毎に それぞれ趣向をこらしてにぎやかに行われた



会場風景

中央ブロック B-P祭

昭和50年2月23日朝9時、中央ブロックの会場である馬込町の東自連会館に着く。前日に上げておいたアマチュア無線のアンテナの調子を見る。少々肌寒い。西部ブロック、南部ブロックをコールしてみるのが応答なし。そうこうしているうちに、中央ブロックの各団(1団、6団、14団、15団、22団)のスカウトやリーダーが集合し、開会の準備が整う。

中央に日章旗、その下に15団堀内BS副長の描いたB-Pの肖像画、玄関には「WELLCOME中央ブロック」の横断幕。各ブロックとの無線によるメッセージ交換がどういう訳か出来ない。

15分程遅れて開会式を始める。一同整列、国旗儀礼、国歌斉唱。つづいて15団原口RS隊長が、本日のメインテーマである「B-Pのお話」曰く「スカウティングとは幸福への道である」と。続いて三輪地区コミのメッセージ伝達。来賓の話に続いて全員で「世界の総長」を歌う。しばしB-Pを想う。

10時を少し廻って第2部の始まり。本日、特別イ

ンストラクターとしてお願いした池田晃一先生の手品がはじまる。リーダー、スカウト共々、次々に繰り広げられるマジックの世界にひきこまれた。特にモデルになったカブスカウト諸君は、不思議な現象に目を白黒させていた。中でも、ギロチン台の中に腕をいれたカブ君は、ただもう、あぜんとして顔面蒼白、目かくしをとってもらって、腕がつながっていたのが自分でも信じられないようであった。先生の話術とマジックにアツというまの30分間であった。

一休みして、会場は映写会に変った。最初に「第6回日本ジャンボリー」を観賞。昨年の夏の思い出がこみあげてきたのは私だけではなかったろう。いつもそうぞうしい(元気のいい)カブ君達も映画に見入っていた。映画の終わった後、一人のカブ君が「どうすればジャンボリーに行けるの」と聞いてきた。「君がスカウトを一生懸命やれば、そして大きくなったらジャンボリーに行けるよ」と答えた。続いてちょっと古いが「第13回ワールドジャンボリー」を観る。当時を思い出して懐かしがっていたのはリーダーばかりか。でも、すばらしい映画だ。いや、すばらしいジャンボリーだ。世界中のスカウトが、いろいろな障害を乗り越えて集まる。「ハロー・ブラザースカウト」B-Pのいわんとするは、これだと思ふ。

この映画の最中に6団のSS、I君が呼びにきた。西部ブロックと無線がつながったとの事、さっそくメッセージを送信する。西部会場から「弥栄・中央ブロックB-P祭」のメッセージをもらう。南部ブロックとは依然、不通のまま。残念なり。もう一本マンガ映画を観て第2部は終り。

閉会式を始める。最後にB-Pの「最後のメッセージ」を朗読。八幡宮の力餅を皆で分けて解散した。

(浜松6団SS隊長・中島記)

南部ブロック B-P祭を見学して

BS浜松20団 育成会員

去る2月23日、入野小学校で行われた南部ブロックのB-P祭を見学させて頂きました。自分の子供が入隊していても、どんなことをするのか、あまり見たことがありませんでした。それが、今度B-P祭を見学して、私ももっと人のためになるような事をしなければ、と、つくづく感じました。

寒い日曜日、ゆっくり起きて、おそい朝食をとっている人もある時に、たくさんの大人の人が子供達のために寒さもとわず制服・半ズボン姿で奉仕をしているのを見て頭の下がる思いがしました。家では、わがままを云っている自分の子供も、隊長さんの命令は良く聞き、指導に従っておりました。ボーイスカウトに入隊しなければ経験することのでき

会場にてお話



ないタコ上げなど見ていると、自分の子供の頃が思い出されて、もう一度タコ上げなどしてみたいなど

思いました。

もう一つビックリした事があります。20団の団委員の人達やお母さん方が、煙で痛い目をこすりながら、子供達のためにオデンやウドンを作っていた事です。大きな釜を据えて、ウドンを暖めネギと油揚げを入れただけの簡単なものですが、これをたべている子供達の顔は、本当に満足そうでした。家で作るどんな料理よりも、おいしそうにたべておりました。お母さん方も真剣そのもので、列をつくって順番を待っている子供達に、一刻も早くたべさせようと、顔にかかる煙もいとわず仕事をしている姿を見て、子供達は幸だなど感ぜずにはおられませんでした。団委員の人達も薪を割り、食器を洗い、手を休めている人は一人もありません。私もオデンとウドン一杯を頂きましたが、ふだん、あまりたべることのないオデンの味が本当においしく、簡単に作るウ

ドンも本職顔負けの味ではないかと思いました。

いずれにしても、このような大人の人達の善意に守られて育つ子供達は、本当に幸福だなど、感謝の気持ちでいっぱいです。



スカウト旗あげ

西部ブロック B-P祭



雪まじりの北風の吹く寒い一日、西部ブロックB-P祭は、佐鳴湖西公園にて開催された。寒さにも負けず、総数 200有余のカブスカウト、ボーイスカウト、団査員、指導者達は一日B-Pを、式典、似顔、ゲーム等を通じて懐しんだ。

式典は、浜松12団のトランペット隊の奏でるファンファーレにより式典ムードを高め、浜松地区委員長・内田時世先生により三輪地区コミッショナーのメッセージが朗読された。引き続き内田先生のB-Pの話し、この頃になると団委員、指導者の方々から深くうなずき、感銘され、目を輝かせて聞きいっている姿が印象的に写った。スカウト達も、話し声一

つ立えず、B-Pの話しを聞きいり、きっとB-Pの意志をついで立派なスカウトとなるよう、心に誓ったことだと思われる。式典は大成功のうちに終わった。

次にボーイ、カブ別々のスケジュールに従ってゲーム等に移った。一方、野営行事委員の方々は、冷たい水で茶わんを洗い、火をたき、スカウト達にすこしでも喜んでもらおうと甘酒の準備に励んでいた。ボーイスカウトは、各団でB-Pにちなんだスタントを用意し、小高い芝の上で演出した。スカウトの演出方が悪いこと、声の小さいこと、寒いことで、演出者と観客者が調和せず、寒い所ますます寒い感じのスタントになってしまった。原因は、雪まじりの北風が吹く中での声が自然の奏でる音にかき消されてしまったこと。あまりにも寒いので元気がなかったこと等々が考えられる。次回にはこの教訓を生かしたいものだ。

その後、佐鳴湖半周約6キロのマラソン、真赤な顔で元気に全員完走した。先着15名と、似顔絵の優秀作品6点を12団の中島団委員長より授与した。昼食後、浜松野鳥を守る会の人達から、佐鳴湖の野鳥の話しを聞き解散した。

カブスカウトは文字合せゲーム、宝さがしゲーム、騎馬戦、棒たおしを行い、おいしい甘酒をすすり解散した。有意義なB-P祭でした。

(浜松第12団・鈴木俊輔記)

浜北ブロック B-P祭

浜北ブロックのB-P祭は、好天とは云え寒さもきびしい2月23日小松・八幡神社境内に於て挙行了た。

9時30分浜北の4カ団は続々と集合してきた。当日ボーイスカウトは試験の関係もあって、各団の参加人員が少くその数約30名位。カブ隊は、新入隊員を含め出席率がよく約150名。リーダー、父兄等を

含めざっと280名の参加のもと式は始まった。

司会は外山副コミに依って進行。B-Pの肖像を前に、整列するスカウトたちも寒さに負けるものかと顔を真赤にして元気がよい。まず、杉山組委員長が地区役員を代表してB-P祭を行うことの意義の説明を行った。次いで外山副コミからB-Pを偲び、B-Pのありし日の姿を話してスカウトの心構えについての話があった。そして三輪コミッショナーからのメッセージが読みあげられて式典は終了し

た。
 参加者全員には浜松の八幡神社から贈られた力餅が配られた。境内の各所には各団の趣向のこらした風船割や、ぼくらの挑戦と云ったクイズもの、紙飛行機、スカウトの立かまど作り競争等リーダー、父兄もスカウトと一緒にのドッジボール遊びで境内は大にぎわい。

さて最後はワイドゲーム。「バーデン・パウエル」

の文字合わせには父兄もリーダーも交って大きわざ。早くも出来上がった組は拝殿の前に並んで記念品をもらいニコニコ顔。最後まで駆けぶり廻っても揃わない組が2組、3組あって父兄が動員して、とびこんでやれやれと云ったところで11時30分無事終了した。

関係者みなさんの協力に依って浜北ブロックのB-P祭はたのしく、そして意義ある一日であったと思う。
 浜北1団・杉山記

浜松第15団結成10周年記念事業

浜松15団は、本年4月をもって結成10周年を迎えることになりました。かねてより、この記念事業につき考えておりましたが、林育成会長の希望と団委員長会、団会議の決議により、八幡宮の境内にアルミポール製国旗掲揚塔（高さ6米）を寄進することに決定し、本年2月11日（建国の日）に15団全スカウト、リーダー、団委員及び八幡宮氏子総代全員参加のもとに、国旗掲揚式を兼ね除幕式を行った。

今後、あらゆる会合等でこの国旗掲揚塔が有意義に使用されることを望んでおります。（山中記）



国旗掲揚塔除幕式

中央ブロックリーダー紹介

浜松第1団隊長紹介

渡辺年啓氏 ローバー隊隊長。大正14年1月2日生。浜松第1団ボーイ隊隊長、シニア隊隊長、浜松地区副コミッショナー、事務長の重職を歴任され現在ローバー隊隊長として活躍されている。その他日本ジャンボリー参加4回、世界ジャンボリー参加、赤沢実修所終了の輝やかな経歴を持って居られる。御家族は御両親、奥さん、子供3人。趣味としては読書、卓球、ハイキング…お仕事は洋服店経営。常に第1団各隊の相談役であり、又アドバイザーでもある。渡辺氏の在る所、笑いあり。いつも暖い雰囲気を作り出す不思議な魅力をも備え持つて居る人である。

増田征久氏 シニア隊隊長。昭和16年1月4日生。浜松第1団ボーイ隊入隊、シニア隊を経て大学卒業後ボーイ隊隊長。現在のシニア隊隊長に至っている。此の間、日本ジャンボリー4回参加、アジアジャンボリー、世界ジャンボリーに参加。家族は奥さんと子供さん3人。趣味は広く特に社交ダンス、テニス、弓道（和弓4段）スキーに関しては第三者の追従を許さないと云う。現在は家業を離れ輸送業を自営。自ら大型トラックを運転、東に西に大活躍中。人に物を頼まれると断る事の出来ない好人物。早口で訥々としやべる話し方で、子供達に絶大な信頼を得て居る。

河原崎敏氏 ボーイ隊隊長。昭和9年4月20日生。ボーイ隊父兄より受講後、ボーイ隊副長を経て現在に至る。



左ヨリ 齋木、川上、鈴木、河原崎、柴田、増田、井ノ口、渡辺、広木の諸氏



増尾



天野



佐藤

家族は奥さんと子供3人。趣味は盆栽、ガリバン印刷、マラソン……。一見してもわかる通り誠実、実直の国鉄マン。現在、掛川駅の助役さんの由。小柄な身体に根性と闘志を感じさせる好感のもてる隊長さんでもある。

川上文雄氏 ボーイ隊副長。昭和16年1月1日生。第1団ボーイ隊入隊、シニア隊を経てボーイ隊副長補、同隊副長、隊長、シニア隊隊長を歴任、現在に至る。此の間、日本ジャンボリー第1回より第5回迄参加。家族は

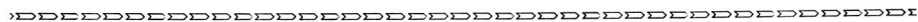
奥さんと子供さん2人。趣味は剣道(初段)登山。現在はトソー繊維に勤務の有望社員。竹を割った様な気質で遠州のカラッ風そのままに、何事にも気一本で少々血の気の多かった時もあった由。スカウト達の良き兄貴分でもある。

齋木孝一君 ボーイ隊副長。昭和30年1月5日生。第1団ボーイ隊に入隊、シニア、ローパーを経てカブ講習会を受講。此の間第5回日本ジャンボリー、世界ジャンボリー各奉仕隊に参加。御尊父は第1団副団委員長であり、又、地区野営行事委員長、兄さんは第1団のスカウターの文字通りスカウト一家の出身。趣味はギター、ヨットの近代青年。誠実で常に奉仕する事を喜びとする近頃見られない素直な人であり、又ハイセンスの持主でもある。

柴田 薫氏 カブ隊隊長。昭和4年4月10日生。第1団団員を経てカブ隊発隊と共に隊長に就任、現在に至る。尚、現浜松地区事務次長、浜松地区副コミッショナー(カブ担当)。昭和47年にはW・B受領。御家族は御両親、奥さんと子供さん2人(スカウト)。趣味は読書、登山、ハイキング、過去においては陸上競技も得意だった由。お仕事は(株)高嶺製作所の取締役。会社内では皮肉屋として有名とか。又、多少オッチョコチョイで、すぐおだてに乗る人でもあり、又、物事に熱中してしまう人でもあるとか。何にしても頼み甲斐の有る人である事は間違いない。

井ノ口智子さん カブ隊副長。昭和15年2月10日生。カブ隊発隊と共に入隊、初代デンマザーを経てカブ隊副長、現在に至る。尚49年5月W・B受領。御家族は御主人とスカウトの男のお子さん2人。趣味はテニス、スキー、日舞、アマチア無線と巾の広い張切りママさん。御主人泰三氏は今更紹介する迄もないが浜松20団のSS隊隊長、地区副コミッショナー。又、浜松アマチア無線クラブ顧問であり、当家は文字通りスカウト一家である。

広木 孔さん カブ隊副長。昭和11年12月20日生。カ



浜松第6団リーダー

中島繁光 SS隊長、地区事務次長。6団きってのスカウト運動通。皆の信頼を背負って立つにふさわしい体重。

山崎仁義 CS隊長。6団きってのスポーツ好き。菊作りも相当の腕前。

山田昌彦 BS隊長。ボーイスカウトリーダー歴17年のベテラン。料理の名人。キャンプでの本部食事は「きまってます」。

飯尾利江子 CS副長補。おしとやかで真面目そうに見えるが、冗談を解するゆかいな現代っ子。

梶村幸子 CS副長補。ハイキング、スキーなんでもやってみたい。花が大好き。

ブ隊発隊と共にデンマザーに就任、受講後カブ隊副長、現在に至る。御家族は御主人とスカウトの子供さん1人。趣味は手芸、スキー。常に故後藤新平初代総長の教えを実直に守り、人のお世話をしても報いを求めない事を信念とされて居る人である。

天野益枝さん カブ隊副長。昭和15年1月21日生。カブ隊デンマザーを経て受講後カブ隊副長。御家庭は御祖父母夫妻、御両親、御主人とスカウトの子供さん2人の賑やかな御家庭。趣味は音楽(エレクトーン、コーラス)。人柄は明るく子供達の良き仲間としてカブスカウト達よりしたわれている。

鈴木ふみさん カブ隊副長。大正14年1月2日生。カブ隊発隊と共に初代デンマザー、受講後カブ隊副長、現在に至る。御家族は御主人に子供さん3人。趣味は活花、手芸。日頃カブ隊の工作のアイデアは大半この鈴木さんより出て居るとか。実直で人目に立たない様に進んで隊員の面倒を良く見る人でもある。

佐藤成子さん カブ隊副長。昭和29年1月29日生。高校卒業後カブ隊副長補を経て現在に至る。御家族はお母さん、お兄さん夫婦と妹さん。趣味はキャンプ、又おいしい物をさがして歩く趣味もあるとか。常にスカウト達の良き遊び相手となる明朗なお嬢さん。非常にボランティア精神に徹した人で、現在菊川町にある東園学園にて気の毒な子供さんの面倒を見て居る事、仲々他人のまねの出来ない事である。

増尾忠雄氏 カブ隊副長。昭和5年9月20日生。カブスカウト父兄より、ボーイ隊副長を経て現在カブ隊副長。第13回世界ジャンボリーにて富士登山指導。御家族は奥さんと子供2人。趣味は登山、スキー。現在ヤマ発新居工場に勤務。尚、趣味に関しての登山では静岡県山岳連盟指導員のベテラン。なまじ平地よりは山の方が詳しいと云う程。常に笑みをたたえ、子供達にしたわれ、又ゲームを通してスカウトの心をつかむのが上手な人でもある。 団委員・尾島記

尚CS副長補両名とも間もなく副長になります。以上とりあえずB-P祭に集まったリーダーを紹介します。他のリーダーは又の機会に。(中島記)



左ヨリ 中島、飯尾、山崎、梶村、山田

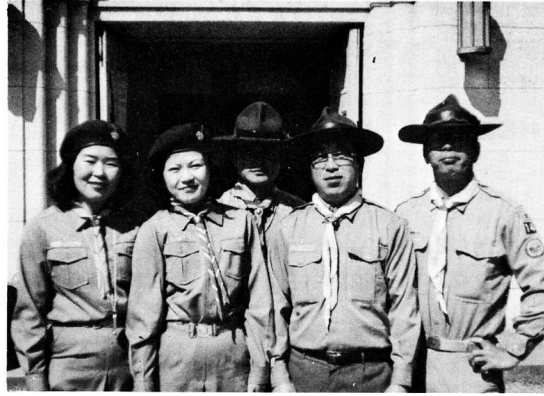
浜松14団リーダー

外山房子 カブ隊長。14団カブ隊発足の気運の中で、期待に答えて積極的にスカウト運動に参加された美人隊長。カトリック教会内でも長年にわたり数々のボランティア活動に情熱を捧げ、深い敬けんな心が子どもたちへのあたたかな指導となって、こまやかにそそがれている。

片山ふさ子 カブ隊副長。外山隊長と同じくカブ隊の指導者として青春の日をスカウト運動に捧げ、ともにWB研修所で指導者の道を修められた。教会内では、青年会の奉仕活動など積極的な運動が続けられている。隊長と名コンビでスカウト隊員の人気を集め、明るくて若さあふれる副長。

小林 博 ボーイ隊副長。カブ隊発足にあたり、いち早く隊員の養成に協力し、カブ隊副長としてリーダー歴を十分に生かして指導にあたった。本年度から小笠原隊長とともに若さのこもった指導が期待されている。つい最近まで横浜の同じ教会のボーイスカウトの指導者として活躍されていたが、勤務の関係で当地に移られた。

小笠原 勇 ボーイ隊長。2代滝川隊長のあとを受け本年度から隊長として活躍されている。長い間、副長として滝川隊長を援け、隊の細かい面まで気を配って盛り立ててくれた。教会内でも新しい信者として実直な人柄が信頼を受けている。中央ブロックでの活動も期待され、



左ヨリ 外山, 片山, 小林, 小笠原, 斎藤, 渥美

各団からの信頼もあつい。

斎藤房太郎 シニア隊長。当団発団当時は団委員として、またシニア隊発隊以来からの隊長。とくにシニア活動を進めていくための隊の内外における巾広い活動を精力的に行っている。

渥美輝男 シニア隊副長。初代山田ボーイ隊長とともに副長として本団創設以来、直接隊員の育成にあたり、その実績を積まれた。熱心な信者でもあり、きびしい訓練の中にも心あたたまる指導があった。成人した隊員があった時は、きつかったな、と、なつかしがったこともあった。現在シニア副長として活躍されている。

浜松15団リーダー

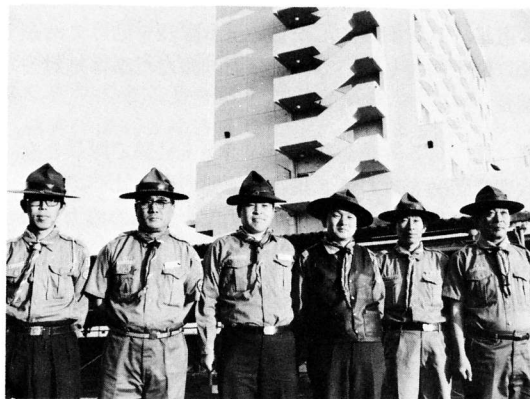
山下虎男 カブ隊長。副長を経て隊長として10年のキャリアを持つベテラン隊長である。家業は自転車、オートバイの販売業。カブスカウトには特に人気があり、決して怒ったりしない。いつもニコニコしているところが人気の的である。得意は歌である。美声につられてカブスカウトもよく歌を唱う。

鎌田要之助 カブ隊副長。自動車修理業を営む快活なリーダーである。長男はシニア、次男はカブスカウト。手先の器用さは絶品で工作、レタリング等では他の追随を許さず。カブ隊にとっては、かけがえのないリーダーである。軽いジョークをよく飛ばしスカウトをよく笑わせ、常になごやかな雰囲気を作ってくれる。

堀井春代 カブ副長。女性らしいきめ細かい配慮が常にスカウト全員に払われ、常に隊長を助け、いつもよいアイデアを出して隊活動にプラスしている。

鈴木まち子 カブ副長。堀井副長同様スカウトになじみの多いリーダーである。細いところまで注意が行届く。

名倉惣一郎 第1ボーイ隊長。織布業を営み、この道6年余のキャリアをもつベテランリーダー。中央ブロック長、地区副コミをも兼ね、第5回、第6回日本ジャンボリーには隊長として参加。世界ジャンボリーには明治野営区奉仕隊長として従横に活躍。白髪まじりで、お年の方だと思うが、どうして40才代の働き盛り。オミキが入れば得意のノドをご披露。なかなか渋いのである。シ



左ヨリ

堀内
山下
馬場
名倉
平村
野松

ニアの長男、ボーイの次男共に元気でスカウト活動に励んでいる。隊集會にスカウトが休むと心配して個別に全部電話して聞く程の出席には特に熱心なリーダーである。

市川 隆 第1ボーイ隊副長。市内将監町に塗料販売業を営み、長男・次男ともシニア、ボーイに在籍。父子ぐるみスカウト一家である。

瀬崎東活 第1ボーイ隊副長。自衛隊音楽隊出身のリーダー。現在は会社員であるがスカウトには抜群の人気あり。その原因は?、15団鼓隊育ての親でもあり毎年新入隊スカウトには手ほどきから指導している。特殊技能指導者である。

馬場俊郎 第2ボーイ隊長。まじめで記帳面で勿論時間もきっちり、それでいてあまり余分な事は云わない。出席も最高、云うことなし。石油会社に勤務、油を売っ

てるとは到底考えられない人である。従ってスカウトの信望も高く、本年は是非WB研修所で益々スカウティングの道を勉強して貰いたいリーダーである。

村松国弘 第2ボーイ隊副長。市役所に勤務の独身青年、この道4年目でWB研修も終了、これからが力の出せるリーダーでもある。

鈴木伊久馬 第2ボーイ隊副長。運動万能のリーダー49年度ソフトボール地区対抗優勝には大いに寄与している。

原口芳彦 シニア隊長。すでにボーイ隊長、ローバー隊長をも経験のこの道8年余のベテランリーダー。歳の割には白髪が多いが気持は青年。営火の指導は抜群である。第4、5、6回日本ジャンボリー参加、世界ジャンボリー奉仕等。県連有功章を授与され表彰された。

浜松21団リーダー紹介

玉木功一 BS隊長。口は悪いが(顔は?)根は優しくスカウト達から兄貴の様に慕われて居る。昨年はハム免許を取って御機嫌の隊長。

土井庸一 BS副長。遠鉄11団時代から13年になるベテラン。地区副コミッショナーの経験もあり、まだ若い21団で頼れる大黒柱。いつもニコニコ、怒った顔を見た事がない優しい副長。

芝本道雄 BS副長。忙がしい玉木隊長を助けて活躍丸い顔に似ず四角く、堅く、記帳面。頼んだ事は絶対安心な副長。

金原 武 CS隊長。CS発隊時、未経験で隊長となり、大変な苦勞を重ねて、現在の何処の団と比べても勝るとも劣らない隊に築き上げた努力家。家族の協力には頭が下がる思いがする。

竹山隆芳 CS副長。何処に居ても目立つ立派な体格と、運動神経と、そのバイタリテイでスカウト達をぐん

堀内三男 シニア隊副長。カブ副長、ボーイ副長、50年からはシニア副長。団内切っでの熱心さと器用さは他を圧している。絵、工作、飾り付け等本職はだしである。酒と食料品店を経営しているので、キャンプの時の献立は材料とも全部一任。何はさておきスカウト行事には皆出席。中学のPTA副会長をもちかねている。小供2人もシニア、ボーイにて活躍中である。

平野 武 ローバー隊長。ボーイ、シニア、ローバーと各隊長を歴任、10年の経験をもつリーダー。日本ジャンボリー3回、世界ジャンボリー奉仕隊員として参加。県連有功章を授与された。電気店を営み、15団結成の発起人の一人でもある。

高山角太郎 ローバー隊副長。テレビの修理技術者。ボーイ隊長、シニア副長等を6年余経験、50年からはローバー副長として指導にあたる。(山中記)

ぐん引張って行く歯医者さん副長。

堀之内りん CS副長。CSの事務的な事は一手に引受け、岩の様に堅く、真面目で、優しい御主人の協力の元男子リーダー並みの出席を誇る副長。

加茂克代 CS副長。結婚生活?年。二言目には「おとうさん」「おとうさん」と、他のリーダー、団委員長を羨しがらせて居る美人副長。(21団・斎藤記)



左ヨリ 竹山 堀之内 玉木 芝本 加本 茂 金土 原井

浜松22団隊長紹介

中央が**滝川卓幸**隊長。彼のBSとの出逢いは古く、12才頃姫路1団に入隊。彼の入隊2年位以前は未だ現在のようなBSの組織が整っていなかったせいも、又、神父がベルギー人であったためかベルギーの連盟へ登録されていたそうです。

神奈川大工学部卒業後、鈴木自動車へ勤務、昭和43年に浜松14団隊長として青少年の育成指導に尽力してきた。現在浜松北部の小池町に居住し、その地にある与進、積志、大瀬、曳馬等の各小・中学校を基盤としたBS隊が是非必要であると14団の顧問をしている織興社長・横山寅吉氏の強い要請により、彼が隊長を引き受け、隊舎をさぎの宮カトリック教舎の敷地内に設置し、昨年12月頃隊員募集で20名以上の応募があり、浜松22団として4月頃、団発足の予定です。

向って左側が**谷下沢邦夫**副長、右側が**鈴木宏昌**副長で共に研修を了えたばかりの新米、子供の気持で頑張りたいたと云っています。(鈴木宏昌記)



左ヨリ 谷下沢, 滝川, 鈴木

カブコーナー

日本ランド

浜松第1団カブ隊

本多正明

1月26日、ぼくはカブスカウトで日本ランドへ行きました。

また昨年のようにソリで、おもいっきりすべってやろうと思いましたが、今年は雪が少なく遊園地の中の小さな雪遊び場しか遊べなく、ぼくはがっかりしました。

ところが雪がないため遊園地の乗り物で遊んでもいいことになり、ぼくがまず乗ったのは、テレコンバットというものです。これは、うちゅう船に、にたカプセルに乗り、ほかのカプセルと同じように動き始めます。そしてカプセル内には、先に赤いボタンがあるレバーとハンドルがあり、レバーを手前にひくとカプセルがあがります。ボタンをおしてじゅうを打ち、ほかのカプセルをおとすというものです。もちろんハンドルを回せば180度回転でき、ぼくはあいてをたおそうと一生けん命でした。今思うとおちもしないカプセルをおとそうとしてたのがバカバカしくてたまりません。

ほかにも、きょうふのやかたは、とてもこわかったです。ジャングルアドベンチャーや、ヒマラヤライドはわすれられませんが、

ジャングルアドベンチャーはジェットコースターのようなもので、とてもスリルがあっておもしろかったです。

ヒマラヤライドは、ふつ／＼はただ回っているのに布がおおいかぶさると、どっちが上か下か、どっちが右か左か、わからなくなってしまいます。

いろいろ乗ったおかげで千円のお金も300円しかのこりませんでした。

そのお金で帰りドライブインでアメリカンホットドックとジュースを買って食べました。

カブスカウトとしての日本ランドの一日は、とても楽しい日でした。

雪遊びに行つて

浜松第1団カブ隊

久木雅人

1月19日、1団カブ隊は日本ランドへ雪遊びに行くことになった。ぼくはうれしくて朝早くから高田君と父と3人でバスを待っていたが、なかなか来なくて、とても寒かった。父が「山へ行くと、もっと寒いぞ。」と言ってタバコをプカプカふかしていた。観光バスが来るたびに、今度こそは、今度こそは、

と喜んだり、がっかりしたりのくり返しだった。

バスの中では、マイクで歌うつもりでいたけど、ぼくは岩崎君とトランプをやったり稲垣君と話をしたり、けしきを見たりお菓子を食べたりしていた。

御殿場インターを出てから、まっ白い雪をかぶった富士山がすぐ近くにあらわれた。もうすぐだ!! なんだかわくわくして来た。

日本ランドにバスが止った。大きなテントの所では隊長の注意もよく聞えないようだ。ゲレンデではたくさんの人が楽しそうに遊んでいる。早く行きたいのにデンマザーがわりの父が「なるべく同じ所で遊ぶのだぞ。それから、そろっておべんとうを食べるから30分ぐらいたったら、ここへ帰ること。」と言ったので、ぼくたちは「はい。」と言って、竹田君とスノーボードをもってゲレンデめざして、まっしぐらに走った。

二人でいっしょに乗ったり、こうたいに一人で乗ったりした。竹田君がくるくる回転しながらすべっているのを、ぼくもまねをしたら2、3回転したところがつてしまった。ほかの人にぶつかったり、ぶつけられて一しょにころがつたり実に楽しい。

でこぼこの所を、うまくポンポンはねてすべるのはバツグンだ。時々スピードがつきすぎて山をこえて水たまりのところへビチャッと落ちることもあった。

昼食の後、4組みんなで乗れる「ヒマラヤランド」に乗った。こわそうなので一度待ってみんなで乗った。すごいスピードで回り、みんなで「キャーキャー」さけんで、ぼうにしがみついた。カバーがかぶさって外が見えなくなると、すごい遠心力で何んだか体が横になっているような感じだ。

「カンゲキー。」

止った時はホッとしました。もう一度乗りたいと思ったが父が「今日は雪あそびに来たのだぞ。」

と言ったので又、2人組でゲレンデですべった。デコボコの所を竹田君とゲラゲラわらいながらすべっていると、父が写真をとりだしたので、上で雪玉を作ってからすべって行ってポンポンぶつけてやった。

帰る時間が来たのでテントにもどってぬれたクツ下や長ぐつをかたづけてバスにもどった。

「もっと長く遊べればなあ。もっと近くにこんな所があれば、しあわせだなあ。」と思った。

沼津のサービスエリアで、うどんやホットドックを食べた。帰りのバスの中でもマイクで歌を唄っている子もいたけど、ぼくは眠むくなっていねむりして帰って来た。

早くボーイスカウトになって広いゲレンデで思うぞんぶんすべれる日が待ちどうしい。

カブスカウトに入って

BS 浜松第6 団カブ隊

峯山正弘

ぼくはカブに入ってよかったと思う。

それは一度もやったことのない「ぼくはナイト」、「ふうせんわりボーリング」、「おむすびころりん」など、カブに入らなければやれなかったあそびだと思ふ。

この前行った西ぶ大会、あのパレードをしたとき少々へんなきもちだった。はずかしいような、えいゆうになったような。

みつお君にきいたけれど、こんどカブでピクニックに行くという。

やっぱりカブに入ってよかった、とその時思った。

浜松第14 団発隊10 周年記念

浜松第14 団カブ隊2 組

本多秀俊

ぼくがカブスカウトとして活動している中で、とても楽しかったことに、ぼくの行っているボーイスカウト浜松14 団の発隊10 周年記念があります。その日のことは、まだはっきりおぼえています。朝早く起きて会場のカトリック教会に行くと、山の方にレインジャー、見はらし台、ぐらぐらゆれる橋などがありました。そして、しばらくするとCS14 団のスカウトがそろいました。昼がすぎると、いろいろな団から、おいわいに来てくれました。そのあと12 団の鼓隊を先頭にして、行進がはじまりました。

それが終わると、おみ堂で記念式典がはじまりました。式典では最初に神父さんのお話があり、14 団のためにいろいろとつくした人たちの表彰をしました。つぎに団歌を発表し、歌いました。そのあと、おみ堂を出てゲームをしました。ゲームはぼくと、川島君と桑原君が一番争いました。そしてけっきょくぼくが一番になりました。

それから、かなりたつと、おいわいに来た人も帰っておでんや、かんとうにを食べました。そしてゴミを燃して帰りました。つかれたけれど、とても楽しい一日でした。その時のことは、ぼくのおとうさんが8 ミリでとってあります。片山副長も写しました。おとうさんが、うまくとれていたとほめていました。8 ミリで記録がとられているのでこの日のことは、いつまでもわすれません。

今までのスカウト生活

浜松第15 団カブ隊3 組

佐藤 博

今までのスカウト生活をふり返ってみると3 年間いろいろなことがあったと思ふ。

入隊したばかりのとき、まだカブスカウトというものをあまりよく知らなかったの、どういふことをやればいいのかわからなかった。

それでも活動をやっていると、だんだんわかって

きた。しかし今ではもう、先頭にたつて皆んなをしきしている立ばになっているから早いものだ。

3 年間といえは長いようだが、とてもみじかったような気がする。

今までをふり返って見て思い出でのこるようなことは何でもあった。

はじめての舎営、組集会や隊集会など数々の思い出になるようなことがあった。舎営やクリスマス会など楽しい行事や畑仕事や、日曜日の組集会など苦しいことや、いやなこともあった。しかし今ではみんななつかしい思い出となっている。

組集会など活動をし、いろいろなことを身につけ上進する。それが3 年間つづいたようだ。そして今カブスカウトを卒業し、ボーイスカウトへ上しんする。カブスカウトへ入隊する前ドキドキしていたがこんどはボーイスカウトへ入るといふことでドキドキしている。今思うとボーイスカウトの方がカブスカウトより、ずいぶんきびしいのでいやだったことなどが、今ではぎゅくに楽しく思えてくるようになってきた。しかし、もうそれも出来ない。

たまの日よう日、遊びたくてもカブがあつて出来なかつた時、気持ちがムシャクシャしてスカウト活動をまじめにやらなかつたことも何どかあつたと思ふ。今思えば、あの時ふざけないで、もっとまじめにやればよかつたと思ふ。

ボーイになつても、なれてくるとそういうことをするかもしれない。これからボーイスカウトに入つたら失ばいしないようにしようと思つた。いままでのようにふざけたりしないでやくそくと、さだめをしっかり守ろうと思ふ。

進級舎営に参加して

浜松第15 団CS 隊

山中 将

3 年間のカブスカウトの課程をあとわずかな月日で終了しようとしているときに、待ちにまつたカブスカウト最後、通算9 回目の舎営が目的地は袋井市小笠山にあるデンマーク牧場で行われた。デンマーク牧場のデンマークということばは聞きなれない言葉だが、よく説明はされなかつたけれど、あまり苦にはならなかつた。いよいよ3 月8、9 日の1 泊2 日の舎営に出発した。東海道本線で浜松より袋井へ行き、そこからバスにのりかえて新岡崎まで行つた。そこから約2 km を歩いた。歩くことは足もじょうぶになるし、気持ちもいい。ぼく自身も歩くことは好きだ。皆んなとしゃべったりして歩いていたら山の中腹に赤い屋根の牛舎とサイロが見えた。これがぼくらのめざすデンマーク牧場だ。立かんばんにはデンマーク牧場約1.2km またしばらく行くと0.8km というのが目にはいつた。もう少しだががんばつた。やっと着いた。広い。緑がいっぱい、空気がうまい。この3 つがすぐ思つたことだ。そこのもう少し上で開所式を行ない、さつそく活動にはいつた。

体育館へ降りて行つた。係員と隊長の説明があつ



デンマーク牧場 体育館

た。この設備は大変なものだ。グリーンボール、バドミントン、フリーテニスボール、卓球などである。その時は皆んなでドッチボールをやった。その夜、食事後又、体育館へ行って卓球をやった。久しぶりにやったけど楽しかった。そして真つくらの中を足元をふみしめながら帰った。次の日はよくわからなかった。グリーンボールをやった。グリーンボールというのは人工のしばふをしき、その上に白いボールを一つおき、はしからその玉に近づくようにそのボールをころがすのである。まん丸のボールではおも白くないので、や、だ円ぎみになっている。まっすぐ行ってほしいのにまがったりしておもしろい。こうして元気一パイに運動して昼食をすませ、帰りはハイキングをかねてバス停留所まで歩いた。バス、電車と乗りついで元気に浜松へ帰った。あまりよい所なので、もう一度行きたいと思います。

日本ランド

浜松第21団カブ隊 くま

石川 知 弘

パッ！目がさめた。いつもならこれから学校へ行かなければならないのだが、これから行く場所は、日本ランドだ。前から楽しみにしていた日だ。

いつものことで急げ！急げ！でしたくをして家を出た。もうバスは来ていた。

さあ出発だ。エンジンの音と共にバスは動き出した。いろいろ話をしたり、歌をうたったりしている間にバスは、いつの間にか日本ランドに着いていた。目の前に雪がある。気の早い人は、もう雪をけて遊んでいる。雪遊び広場では、どこを見てもソリでうずもれていた。「雪だ、雪だ」という声があちらこちらで聞かれた。ぼくもうれしかった。でも少し心にひっかかることがある。それはスキーが出来ないからだ。

ソリが皆なにくばられた。さっそくすべりに行った。山本君と組んで雪を思いきりけた。サーッ、ソリが音をたててすべり出した。同時に回りのけしきも、川のように流れていった。スピードが今までより、だんだんおちていった。登っては下り、登っては下り、とやっているうちに「集合」と声がひびいた。宝さがしをやるそうさ。宝はミカンだった。「なんだあ、ミカンか」「がっかりだな」と皆んなブツブツ言っていた。もうじきスタートになる。「よーい」ドタバタ、と皆んなくずれた。

「よーいどん」おせや、おせやで、はげしい取り合いが始まり、終わった。結果は6個だった。まだまだいろいろなことが行なわれ、もう3時に近づいた。帰りに買ったおみやげは短刀だったが、今は兄弟げんかで取り上げられてない。しかし初めて行った日本ランドだ。いろいろなことがあったので楽しい、よい思い出になると思う。

カブスカウトに入隊して

B S 浜松 6 団カブ隊

内 山 浩 之

カブスカウトに入団して大変よいと思った。今まで日曜日には、おそくまでねていましたが、カブスカウトに入ってから、朝早くから集会に行き、みんなでゲームをしたり、ボールを投げたりしました。ほかの学校の人と友だちになれてほんとうによかった。

一番心に残るのは、クリスマスパーティです。たい長のお話もぼくはすきです。これからも、いろいろな事をおそわってりっぱなカブスカウトになりたいと思います。

宝 永 山 登 山

浜松21団 年少隊くま

杉 本 賢 一

7月28日に大望の宝永山へ登った。途中、岩が突き出ている、ロープで渡って行った時は、スリルがあって、とても楽しかった。

一番心に残ったのは、あの火山岩がゴロゴロしている山はだを登ったことだ。下から見ると20分もあれば十分登れそうなんだけど、実際登ってみれば登っても登っても進まない感じがする。それは道がくねくねしているからだろう。

隊長が「つかれたら、むりしなくてもいいから、休みなさい」と言ってくれたけど、ぼくは隊長といっしょに進んで、いっしょに休んだ。頂上まで25m位になった時は、体がダメになってしまったので、足だけ力を入れて進んだ。頂上へ着いた時は思わず「やったあ」と歓声をあげた。頂上へ登って、一番初めて見たのは、自分の下にある雲だった。生れて初めて雲の上に来たのだから、雲が気になるのは当然前だと思う。

あの時のうれしさは、今でもわすれない。下山する時、火山岩が、くつの中に入ってしまうので、足がチクチクして、とても痛かった。それから、一つ不思議なことを見つけた。それは、いつも、ぼくの家のところから富士山を見ると、いつ見ても富士山は雪のところは白く、山はだは青く見えるのに、近くへくると茶っぽい火山岩と黄緑の草が生えているだけだった。青いものなんか少しもない。ぼくは、これが不思議でたまらない。

帰り、バスが雲の中に入ってしまった。「雲の中に入れば、水てきがいっぱいなので、雨が降っているのだろう」ということは、前から予想がついていたけど、気圧の変化で耳がおかしくなるということは初めて知った。白糸の滝にもよったけど、3組はおみやげを買うのが夢中で、川原に行けなかったのが残念だった。1974年、7月28日という日は一生わすれない日だろう。

天竜厚生会館へ行って

浜北第3団カブ隊組長
松下 康一

去る12月15日に天竜厚生会館のせいふうりょうへ同じ団のボーイスカウトと静岡第48団ガールスカウト、そしてぼくたちカブ隊で「もちつきいもん」をしました。

ぼくは去年入ったばかりなのでまだ2回しか、もちつきいもんへ行っていませんので、うまく手つだえるかと心配でした。

厚生会館へ着いてから、その人がどんな人が入っているかを聞きました。

それからリュックをおいて「公会堂みたいな所へ入りました。見るとおじいさんやおばあさんたちがすわっていました。そのまん中にはうすが2つおいてありました。そして、その横には、つくキネが2つずつおいてありました。

隊長が「今日は6うすつくんだよ」と言いました。隊長が、つき始めました。

回りから、聞きなれない変な声で「よいしょ」「よいしょ」が連発されました。

その声は悲しそうにも、うれしそうにも聞えました。「ベッタン、ベッタン」つくおもちの音をきいているだけでうれしくなりました。

つきたてのおもちにはデンマザーの人たちに、ちぎってもらい、皆んなでアンコもちを作りました。かんたんそうに見えても、なかなかむづかしいです。うまくアンコを入れても、しっかり作れなかったです。

2つのうすで5つまでついて最後の一つをしせつの人についてもらいました。

その人たちも隊長におとらぬ、いせいのよい音が出ました。ついてしまってから、おべんとうを食べ、つきたてのおもちを1人3つずつ食べました。やっぱり、おいしかったです。

それから、ぼくたちは森林公園のそうじ、そして最後に農協にある「緑のデパート」で、ぼ金運動をしました。

ぼくは又、来年も、もちつきに行きたいと思いました。

12月15日 カブの1日

浜北第3団カブ隊
阿部 卓也

きょう天竜厚生会へ行きました。

厚生会に行くまでバスの中で、しりとりをしたり、なぞなぞをしながらあそんで行きました。厚生会についてから、じむの人が、ここにいる体のふじゆうな人のことや、カブ、ボーイ、ガールスカウトに、どうして来てもらったのかの話をしてくれました。

話が終ってからリーダーにしたがって、もちをつく所へ行きました。まず、水で手を洗って中へ入りました。中に入ると厚生会の人たちが全員いすにすわっていました。ぼくは大変おどろきました。

おもちをつく所は学校で言うと、こうどうみたいに広いところでした。そのまん中に、うすが2つありました。うすの上に新聞がのっているの、とつ

て見ると中は、からっぽでした。ぼくは何んだと思いました。そこで待っていたら、じむの人がふかしたもち米を持って来ました。2つのうすに、ぼくの頭の2ばいぐらいのもち米をいれました。始めに野中たい長と、じむの人がつきました。ぼくたちカブボーイ、ガールは、ついたおもちをねってアンコを入れたり、きなこをつけたりしました。ぼくがガールのねっているおもちの方を見たら、ガールは、おもちのとりっこをしていました。もちつきが終っておべんとうをたべました。おべんとうのとき、団委員長が「みんながついたおもち全部で551こだよ」と、おしえてくれました。おべんとうを食べ終ってから、12時15分にさっきのバスで森林公えんに行きました。森林公えんについてから、野中たい長がビニールぶくろは森林公えんのゴミをひろうためにもらったのです。森林公えんのはくぶつかんの所から池までゴミをひろいながら行くのです。

一番たくさんおちていたのはタバコのすいがらです。ゴミひろいが終ってから、れんらく所まであるいて行きました。と中でぼくは、田んぼの中を通った方が近いと思って、じゅん君と行きました。と中で川があって、わたれませんので、大きい石ころを持ってきて、はしを作りました。あさくて、せまい川だからよかったと思いました。早いと思っていたのが、びりになりました。ぼくと、じゅん君は走ってやっと、みんなをおいぬかして学校まで、たどりつきました。学校の中を通って、れんらく所につきました。みんなが集ってから、しん原のうえ木市へ行くことになりました。さい末たすけ合いうんどうをやり、ぼくのは59円入りました。入れてくれる人はだいたい老人です。ほかの人で150円や200円位入った人もいました。今日は、とても楽しかったです。

早朝のスケートセンター はボーイスカウトが占領

浜松21団カブ隊では3月2日、隊集会としてスケート教室を行なった。

浜松宮竹町のスケートセンターへ早朝、7時半から入場。スカウト、父兄、リーダー、合計百余名。初めてのスカウトが数多く、滑って転んで、と云いたい所だが、転んで、歩いて、転んで、と云う風景が至る所で見られた。父兄を含み、大変のしい一日だった。

当日は浜名8団、磐田3、7団とボーイスカウトが早朝のスケートセンターを占領し、スカウトの若い歓声で沸き返っていた。



スッテンコロリン

ボーイコーナー

ソフト ボール 第15団優勝す

昭和50年1月12日 於 自衛隊西グラウンド

リーグ戦結果表 浜北ブロックはキケン

	15 団	19 団	20 団	細 江 1	勝 敗
中央(15団)		× 9 点	○ 28点	○ 12点	2 勝 1 敗
西部(19団)	○ 10点		× 5 点	○ 13点	2 勝 1 敗
南部(20団)	× 6 点	○ 10点		○ 27点	2 勝 1 敗
細江(1 団)	× 10点	× 7 点	× 5 点		3 敗



第15団 優勝チーム

以上の結果、じゃんけんにより優勝、2位、3位を決定。

優 勝 15団 (中央ブロック)
2 位 20団 (南部ブロック)

3 位 19団 (西部ブロック)
4 位 細江1 団 (引佐、細江ブロック)
試合中、および試合終了後、野営行事委員による「あま酒」の配給は冷えた身体に暖かくしみわたった。

浜北 廃材使い遊び 1 団 場 造 り 奉 仕

スカウトの手で子供の遊び場を造ろうと浜北第1 団ではスカウト、リーダー、団員等40人が協力し古材を生かし、不用の古タイヤ、枕木、古電柱を集め平均台、タイヤの馬とび、砂場、登はん棒等、金をかけずに数々の遊具が備わった。

金山遊園地はこれまでの面目を一新、近所の子供でにぎわっている。浜北地区の人々から、こどもの格好の遊び場が出来てうれしいと感謝されている。

(昭和50.2.13 静岡新聞より)



遊具造りのスカウト

スカウト活動

浜松第1 団BS 河原崎 成敏

浜松1 団のボーイ隊では、2月2日浜松スケートセンターへスケート訓練に行った。このスケート訓練は毎年2月にボーイ隊の行事として行なわれているものである。スキーと同じようにスケートもスカウトの人気のある行事でみんな前から楽しみにしていた。朝8時半に法林寺へ集合して車に分乗し会場に到着したのは9時過ぎであったため、ずいぶん多くの人でにぎわっていた。まず隊長の注意を受け準備体操を行った後、それぞれリンクに出て思い思いの練習をした。どのスカウトもスケートは何回も経験があるので、なかなか上手に滑れる。僕も何度か

このセンターに来て滑ったことがあった。およそ2時間ほど練習して帰りは川上副長の知り合いである店で食事をして帰ったが、この食事のうまかったことは忘れられない。また来年もスケート訓練をやってほしい。

1 年前の班長訓練野営

浜松第6 団ボーイ隊 山下 徹久

ぼくは今シカ班の班長だ。班長というよりはやはり1 年前の班長訓練野営が思い出させる。

あのときの班訓には、ぼくはまだ六年生だった。

6 団からいっしょに行った人たちとも別れて和地山公園で知らないボーイスカウトたちと班をつくりうぐいす班として野営地渋川に向った。

いよいよ野営地につくと開会式を行ない、設営にはいった。ぼくは、班の人たちよりも年下なので少し気が重かった。しかし皆んな仲よくしてくれてすぐ仲よくなった。だけど何んとなく15 団の2 人とぼく以外の4 人の人たちが気が合わないようだった。

次の日は小高い山の斜面で、ボーイスカウトの班長というものは、どういうものなのかとか、いろいろなことを地区の人たちが話してくれた。そして一つうれしかったことは、ぼくたちの班、つまりウグイス班が優秀班にえらばれたことだ。とくにその日は、ぼくがウグイス班の班長だったので、とてもうれしかった。

第3 日目はオリエンテーリングのようなハイキングで名前は忘れたが小さい小学校へ行き泊った。その時、このハイキングは早さを競っていて、ぼくたちの班は時間ではトップでしたが15 団の人が班旗を落したので1 位は取り消しになった。ここで又ほかの4 人の人たちとの仲が悪くなった。しかし、これはやはり班全体の責任になると思った。

いろいろなトラブルがあったが、どうにか無事に班訓は終了した。このときの反省は最後まで15 団の人たちとほかの4 人の人たちとの仲が悪かったとい

うことだと思った。

今年の班訓にいく人は、その時につくる班の人たちとは仲よくやり、班長とは、どういうものなのかしっかり覚えて帰って来てほしい。

今年のスキー

浜松14団BS隊
ブラックビー班

奥沢久也

僕達の14団は毎年スキー訓練を行なっている。今年は岐阜県の鈴欄高原へ行く事になった。

2月8日が来た。朝から学校の終るのを待って、急いで家に帰り、3時、集合場所の成子静銀の横へすべり込みで入った。今年はカブ隊もでき、にぎやかな訓練だ。バスの中では、ゲームや歌で楽しい6時間であったが、又待ちどうしい6時間でもあった。

9時民宿に無事着いた。到着すると副長が、「朝、6時起床だぞ」と言ったが、みんな（起きれるかなあ）と心配だった。ねむい目をこすりながら起きると、一面真白な雪野原だ。

さあ、朝礼だ。僕と高田君が旗あげの係になった。真白な雪の中でラジオ体操をやりながらも（早く滑りたい）。と言う事ばかり考えていた。

朝礼が終ると、どこからか雪の玉が飛んできた。もう、雪合戦が始まっていた。

7時に朝食、8時からいよいよ本番のスキーだ。もうスキー場には一ぱいの人だった。僕とじゅん君と長尾君は、一番始めにリフトに乗った。下まですべっていくうちに、ころんだこと何んと4回。でもいくらころんでも痛くなかった。少したったら、ころばずに、うまくすべれるようになった。

スキーをとってバスに乗ってからも、まだ雪の上をすべっているような気がして仕方がない。

又、来年もうんとがん張って14団の皆んながそろって来て楽しむことが出来るようにしたいと思う。

来年は、どこのスキー場になるのかなあ。

観察ハイク

浜松第15団ボーイ隊

松井利浩

コース 青少年の家（9.33出発）→新道（9.39）→興誠高（9.44）→白山神社（10.08）→常楽寺（10.24）→天林寺（10.40）→放送局（11.05）→青少年の家（11.23）

白山神社 終戦後昭和25年10月15日復元した。今回明治100年を記念して本殿並びに神域全部を改築。いぎなみ、いぎなぎのみことを祭っている。

常楽寺 宗旨は高野山真言宗。御本尊は阿彌陀如来。総本山は高野山金剛寺。根本の御本尊は大日如来で大日如来の御真言はオニアピラ・ウンクン・バザラダトバン。宗祖は空海。

放送局 浜松はわが国のテレビジョン技術の発祥地である。昭和10年について、蓄積方式撮像管が完成され、今日のテレビジョンの発展の基礎がこゝに初めて確立した。

感想 なににしてもつかれた。寺を主に廻ったが警察に聞いても白山神社はなく大いに困った。

SKI

浜松14団ボーイ隊
シャーク班

村瀬孔一

僕は、2時半に家を出て成子の静岡銀行……集合地に急いだ。

静銀からバスで鈴欄高原に向った。バスの中ではラジオを聞いたり歌をうたったり楽しく胸はずませて、やっと目的地について、あすの予定など副長から言い渡された。いろいろと注意などがあつた。

ねる時、明日のスキーの事ばかり考えていて、ちつとも目をとじる事が出来なかった。

次の日の朝、6時に起きて外で体操をした。真白の雪の上で僕は、とてもそう快だった。そして、スキー場について、用具のある地点まで行ってはき、始めは少しの坂ですべっていた。何分かたってリフトに乗った。上の方からすべってくるとスピードもついて楽しかったけど、半面とてもこわかった。リフトに乗っても、曲がり方と止まり方がよくわからなくて、ころんでばかりいた。やっと少し上達して来たころはもう、帰りの時間になっていた。

3時間ばかり、アツという間だった。しかし僕は余りに楽しかったので、スキー用具をはずすのが淋しい気がした。いつまでも、あの雪の上を走り続けていたい気持で一ぱいだった。

S . S . 雑感

浜松第14団SS隊

斉藤幸哉

山中湖は全国的に有名な避暑地であります。富士と山中湖とあふれる緑に囲まれて絶好のキャンプ場です。夏、涼しいのですから、冬は寒くて当然でしょうが、そこで野営する我々はたまりません。

ツバメの越冬地、浜松、からママレモンもこおる山中湖までですから、現地に到着するまでに完全にアゴを出してしまいました。一面の銀世界。なにしろ開所式の次に雪合戦となるんですからたまりません。30cmの雪をかきわけての設営。寒くて、痛くて（骨が痛いのです）その上、ぬれた薪(?)で火はつかない。固型燃量を囲んで食事をするのですが、とにかく寒いのです。日没後は急に温度が下がり、夜中にはマイナス10℃になります。体温を奪うからと言って、エアーマット、の空気を抜いたり、5、6枚着こんだ上にコート類を着て、毛布をつつ込んだ寝袋の中に、頭まで入れて寝るのですが、それでも明け方になると寒さで目をさましてしまいます。

そんな寒さの中で、ハイキング、スキー、ソリ競技(?)キャンプファイヤーなどを消化したのですがともかく製氷室の中の4日間、実に貴重な体験でした。地面においた食器がこおりついて取れなくなったり、火にかけたナベの水が、火の当る方だけぬるくなって、逆の方は凍ったりするような現象は、も

う2度と見ることはないでしょう。太陽の光と乾いた薪があればどうれしかつた時もないでしょう。

チョロチョロとたよりにく燃えるカマドの前で、一日中こおった靴をかわかしながら富士山ばかり眺めていた。そんな4日間でした。14団で一人参加した自分ですが、無事終了し、貴重な体験を得ることが出来たのは16団の皆さんのおかげです。どうもありがとうございます。

B S 観察ハイク

浜松15団BSバッフアロー班

飯田智司

経路 浜松青少年の家→城北高校→高台中学→日赤病院→NHK→静大→城北幼稚園→北部中学→SBS→池谷商店→富塚小

青少年の家を出発して城北高校に着いたときは、たやすかったけれど、高台中学へ行く時は、苦しかった。一番早く出発して、一番遅く帰ってきたのは残念だ。しかし、チームワークはとれていたと思う。二俣街道と姫街道の区別も出来なかったとは、いさか恥しい限りである。わからなかったら人に聞くという事も考えなくてはいけなかった。足はあまり疲れていなかったが、体がだるかった。それから測定法には誤りはないと思う。日赤病院と国立病院の区別もまた出来なかったことは、やはり恥ずべきことだ。それは、この辺の地理に詳しくなかったためだから、前もって調べておくべきだったと思う。それからテレビ塔をさがしたが、NHKしか知らなかったもので、近所の人に一応聞いておくべきだった。NHKに登ってやっとSBSのテレビ塔らしいものが見つかったのでホッとしたが、どのように行けばよいかわからないので苦労して、まず静大の後ろを富塚小の後ろとまちがえたり、うのみに考えてしまうことが多かった。城北幼稚園の後ろに見えた学校も富塚小とまちがえて北部中学とわかった時は、がっかりしたが、テレビ塔が近くに見えた時は安心した。丘の上に登るのには疲れたが、それがSBSとわかった時はとてもうれしかった。そこで少し時間がせまっていたので、公衆電話の場所を近くの人に聞いたら、電話を貸して下さったり電話番号をさがして下さったりして親切にして下さった。何回もかけたが、話し中だったので富塚小への道を聞いてまた出発した。そこから富塚小まで1kmと言ったが、実際には、もっと長いように感じた。スクールゾーンの標識が見えたときは、とても感激し、校舎を見つけたときは、なお一層うれしく、とびあがりたいほどだった。これからは、ハイクに対してもっと注意をすべきだと思う。

竜頭山へ登って

可美第1団 トナカイ班

鈴木和彦

3月9日、いよいよ竜頭山登山。うまく登れるか少し不安でした。なんと言っても1352m。はじめは

みんな元気よく出発しました。登りはじめは、やましいくらいしゃべっていました。だんだん高さが高くなると道はぼもせまくなるし、みんなだんだんつかれてきたのか元気がなくなり、ただ「ハー、ハー」という疲れた声だけです。足も重たくなりました。雪が見えはじめました。

「もつとないかなあ、つもつてないかなあ」と思いましたが、つもつているととても登りにくくなりました。こんどは氷も出てきてツルンとすべりました。ころんだ後もすべり止まらない時もあり、こわくなりました。とても神経を使いました。ちょっと足をすべらせたなら下へころがって行ってしまうので、とてもこわくなり、人がころぶのを笑うといつも自分もころんでしまいました。所々の木立のすき間からとてもきれいなけしきが見えました。上の方へ行き頂上だと思ったら、そのとなりの山だったのでガックリきました。やっと頂上へ着きました。すぐ固型ねんりょうで湯をわかし、金ちゃんヌードルを食べました。休むひまなく、すぐ下山です。勢いよくおり始めましたが、氷の所は慎重にありました。雪がなくなると、こっちのものとかけ足でおりました。足がぼうになり、くたくたになって来ました。おりたら店でジュースを飲みました。くたびれていたもので、とてもおいしかったです。とても楽しかったけど、くたびれました。

二度目の竜頭山征服

可美第1団 トラ班

波多野真也

ぼくが竜頭山に登るのは、これで2度目。1度目は雲の中に入ってしまったためたまらなかった。今度はそんなことはないようにと神様キリスト様、仏様に祈って登った。

3月8日午後1時半ごろ役場を出発。4時半頃、その日の目的地山香公民館に到着。いろんなことがあったけれど何とか無事に眠ることができた。

朝のお目ざめは5時半。食いすぎるほど朝食をとって、いざ出発が7時半。竜頭山登山口までは早いペースで国道125号線を歩いた。去年は、この道はまだ舗装されてなかったのに、きれいな道になっていた。それにしても朝の空気は気持ちいい。

稲垣さんを先頭に、いよいよ竜頭山に登る。去年は登るペースが早すぎたと今年はゆっくり、ゆっくり、一步一步確実に登った。ゆっくりなので、あまりつかれなかったし、休みもそんなにとりたいたとは思わなかった。山を流れる川は、きれいで、すみきっていた。2度目の休けい地のあたりから、雪が少しずつ積ってきた。はじめは雪があると何となくうれしいような気がしたが、次第にアイスパーンがふえてきて足がツルツルすべった。何度ころんだことか。もう必死だった。頂上に近づくと雪が深くなり空気がつめたくなってきた。そのころになると腹がへってきた。まだか、まだかと思いつながら、ふんばって登った。やった!!頂上だ。2度目の竜頭山征服

をなしとげたぞ。1352信を登ったぞ。頂上では、金ちゃんヌードルを食べた。ああいう所で食べるのは、たとえインスタントでもうまかった。下山はフルスピードで下った。途中、道がくずれていた。そこはボーイスカウト。みんなで注意し合っただけで無事に通りぬけたのであった。

ぼくが竜頭山に登ったのは2度目だけど、何回登っても、いいもんだ。山の空気の新しさ、頂上で食べるものうまさ、川の美しさ、遠くに見える山の美しさ。何をとって、すばらしいものばかりだ。ぼくは、ボーイスカウトに入っただけでよかったと思っていました。

組織拡張委員会報告

1月27日、法林寺にて地区組織拡張委員会を開催し、議題として「スカウト浜松」の発行方法・内容等につき協議した。杉山委員長からの提案により、従来の発行日、1月、6月、8月、11月を1月、4月、7月、10月に変更し、編集も4月を中央、7月南部、10月西部、1月を浜北・引佐各ブロックにて分担することを決定した。

このような決定により、これからの発行は各ブロックの持味を十二分に出し、従来のものとは変わったものになることと期待しております。

引続き座談会形式により出席者全員にお聞きしたところ次のようなご意見が出ました。

- 三輪地区コミ…各団の報告を出すこと、写真の実費を地区負担としたら。地区委嘱のカメラマンを作ったらどうか。
 - 6団中島…キャンプ、ハイキング等スカウトの記事をもっとのせたら。
 - 浜北4団松島…デンマザー活躍記事を「スカウト浜松」にのせればスカウトのPRになる。
 - 10団河合…原稿用紙を送って貰いたい。PR誌経験あるので協力したい。
 - 牧野事務長…小供の原稿とリーダーの紹介をのせること。
 - 1団小島…原稿のテーマを提出させる。座談会等よせ書きでも可。
 - 11団鈴木…原稿集めは大変である、今後きめ細かに。
 - 16団新井…団に強力で要請する。
 - 18団鈴木…小供に読みやすく活字も大きく。
 - 可美1団中村…格調が高い。カブスカウト専門を出したら。
 - 細江・握美…今後努力する。
 - 21団齊藤…ひのえ年でスカウトが少い。
 - 引佐1団伊藤…編集の持回りはよい。
 - 山口事務次長…皆さんの意見に賛成。
 - 7団高倉…写真はよいが字が小さい。1年に1回新入隊員の氏名をのせたい。
 - 15団山中…ブロックのリーダー紹介、スカウト欄を設けたい。
 - 吉沢協議会長…小供が意見を書くことは大切であり小供は純心である。栃木県の友人に送ったら喜んで自分達も作るとのこと。
 - 内田地区委員長…「スカウト浜松」県連でも鼻が高い貴重な存在である。1号〜53号取りそろえて見れるようにしたい。昔の自分の記事を見て非常に参考になる。
 - 内田県コミ…10何年前にアジアジャンボリーの前に出したのが第1号である。当時、皆んながどんな記事を希望しているのか編集委員何人かが出て貰って、各階層から原稿を出して貰うのがねらいであった。父兄からの要望を知りたい。読者との交流があって反響があるとやり甲斐がある。浜松地区は県連内で1番のスカウト人口の多い地区である。これは「スカウト浜松」が大いに貢献している。
- 以上のように、いつになく活発なご意見続出し「スカウト浜松」をより一層皆さんのよい一機関紙としてお届けしたいと思います。次号はこれを充分取入れた4月号が発行されることを期待しています。(山中記)

うごき

- 2月2日 第10期班長訓練野営の野営地下見(三輪・原口・竹村・中島・鈴木俊・名倉外)
- 同日 昭和50年度登録事務説明会(法林寺)
- 8〜9日 第2回静岡県トレーニングチーム研修会(市立青少年の家)
- 12日 地区委員会(法林寺)
- 13日 西部リーダー会議(中島宅)
- 15日 地区コミ会議(静岡県民会館)
- 16日 佐久間第1団(浦川)隊審査(内田嘉・板倉)
- 18日 地区内コミ会議(法林寺)
- 20日 地区名誉会議(地区委員長宅)(内田・宮沢・三輪・牧野)
- 同日 中央ブロック会議(法林寺)
- 23日 臨時全国会議(東京)(内田嘉・三輪)
- 同日 各ブロックB-P祭(4会場)
- 25日 県連名誉会議(内田時・内田嘉)
- 3月1日 野営行事委員会(法林寺)
- 同日 事務長会議(県民会館)(牧野)
- 2日 東京府中第5団野営地下見案内(芝形外)(外山名倉・鈴木俊・中島・三輪)
- 5日 班長訓練野営プログラム会議(法林寺)
- 8日 地区コミ会議(県民会館)
- 9日 昭和50年度登録申請受付(法林寺)
- 同日 地区委員会(法林寺)
- 12日 中央ブロック会議(法林寺)西部ブロック会議(中島宅)
- 14日 引佐町教育委員会及び現地利用学校へ班長訓練野営の打合せ及び食糧調達(竹村・木村・高須・八木本・中島・三輪)
- 15〜16日 BS第175期指導者養成講習会奉仕(内田嘉・三輪)(県青少年センター)
- 17日 野営行事委員会及び班長訓練野営本部員打合せ(法林寺)
- 20日 班長訓練野営先発隊入山(渋川・川宇連)
- 21〜24日 第10期班長訓練野営(渋川・川宇連野営場)
- 26日 財政委員会(法林寺)

あとがき

- ボーイスカウト日本連盟総裁・石坂泰三先生急逝の訃報に接し、只々呆然とするのみ。88岁のご高齢にもかゝらず我等スカウトの父としてご指導をされ、又第13回世界ジャンボリー成功にも大変ご尽力されました。先生の安らかなご昇天を心からお祈りします。
- 「スカウト浜松」の編集を今後は各ブロック毎に責任分担することになり、本号は中央ブロック担当になりました。不馴れの点多々ありますがご容赦の程お願いします。次号60号は南部ブロック担当。ご期待を乞う。
- 本号はB-P祭、中央ブロックリーダー紹介特集とし、原稿もたくさんご協力頂きましたので16頁でとしました。
- 春のスカウト活動は緑の羽根街頭募金と渋川班訓練野営から始まる。本年度もスカウト諸君の積極的な活動を切に望みます。(山中記)

発行所	第59号
日本ボーイスカウト浜松地区事務所 浜松市利町70-4 児童会館内	
編集発行責任者 杉山友男	
印刷所 朝日堂印刷所	
昭和50年4月1日発行	